

## 平成 27 年度 教育・学生支援センター 自己評価報告書

### I. 沿革及び設置目的

(沿革)

- 平成 15 年 10 月 宮崎大学と宮崎医科大学の統合を契機に大学教育研究企画センターを設置  
平成 19 年 4 月 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターを設置  
平成 22 年 10 月 教育研究・地域連携センターを改組し、教育・学生支援センターを設置

(設置目的)

教育・学生支援センターは、宮崎大学における学士及び大学院教育の内容・方法の改善、学生に対する学習、課外活動、経済・生活の支援及びキャリア支援に関する事業を推進・支援するために設置された。

### II. 教育研究等の目的及びミッション

#### 1. 教育研究等の目的・目標及び養成する人材

本センター設置目的に則り、本学学生の教育及び学生支援の発展・充実に寄与することを目的とする。

#### 2. 教育・学生支援センターのミッション（強みや特色、社会的責任）

本センターは、教育企画部門と学生支援部門からなり、大学教育に関わる企画事業と学生支援事業を行う。

##### (1) 教育企画部門のミッション

共通教育（平成 26 年度から基礎教育）、専門教育から大学院教育までの大学教育の在り方に関わる研究を中心に、教育方法、教育環境の改善を図る。

##### (2) 学生支援部門のミッション

大学が果たす学習支援の方策に則り、課外活動、経済・生活支援及びキャリア支援に関する事業を推進する。

### III. ミッションを実現する活動状況

#### 1. 「教育企画部門」のミッションを実現する活動

- ・ディプロマ・ポリシーに掲げる育成する資質・能力に係る授業科目の履修状況、到達度を点検・評価する「学習カルテ：履修システム」の機能強化し、入学時から卒業時までの履修状況点検するシステムを開発した。これにより、学部長、学科長等、教育の管理に就いている教員が学生の履修状況をより詳細に点検し、学習に問題を抱えている学生の早期発見と指導に活用できるようになった。
- ・平成 26 年度からスタートした学士課程教育プログラムにおける教育方法の特色であるアクティブ・ラーニングを推進するために、昨年度整備を行った教育文化学部研究棟の CALL 教室 A、B の 2 教室の整備を充実し、さらに、教育文化学部講義棟 L105 教室を新しくアクティブ・ラーニング教室として利用出来るように教育環境の整備を行った。

#### 2. 「学生支援部門」のミッションを実現する活動

- ・学生支援カンファレンス、学生支援フォーラムなどを実施し、学生支援に関する各部局

間の情報共有や連携の推進、教職員の意識向上を図った。また、障がい学生支援室（運営会議）にも参画した。

- 学生支援フォーラムについては、全学型のフォーラム2回（9月28日と12月22日）の開催に加え、平成26年度より取り組んだ少人数でより深い討論等が可能な少人数・出前型のフォーラムも4回（7月21日、9月11日、9月15日、10月20日）実施した。
- ・学生ボランティア活動支援室を整備・新設し、2月から、火曜日と金曜日の14時から16時まで、ワークスタディの学生を配置して、開室した。
- ・学生なんでも相談室について、新入生及びその保護者への周知を図るため、リーフレットの作成・配付を行った。
- ・全1年生を対象とした「進路意識調査」を実施した（平成24年度より）。その結果は、学生委員会、キャリアサポート専門委員会を通じて、各学部へフィードバックし、早期からのキャリア支援の取組を行った。

## IV. 活動状況の自己点検評価

### 1. 教育活動

#### 1-1. 教育活動の状況

##### 1-1-1. 教育実施体制

###### (1) 学士課程

###### ①教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

- ・教育・学生支援センターとして、専任教員の専門分野に関連のある部局の教育に貢献した。
- ・基礎教育部における授業科目を担当し本学の教養教育の充実に貢献した。
- ・教育文化学における教科専門科目を担当し教員養成プログラムに貢献した。

###### ②入学者選抜方法の工夫とその効果

- ・入学試験とGPAの相関を調査し選抜方法を点検した。
- ・学部生について、入学時から卒業時までのGPAの追跡調査を行った。

###### ③教育の質の改善・向上を図るための取組

- ・第二期中期目標・中期計画の最終年度にあたり、教育に関わる事業について、達成状況報告書を作成し、結果、教育の質保証・向上に貢献した。
- ・第三期中期目標・中期計画の作成にあたり、教育に関わる事業について、事業計画案を作成した。
- ・教育の質保証・向上委員会において、教員の業績表彰（教育）について、選出方法や表彰案について協議を行い、表彰を実施した。

##### 1-1-2. 教育内容・方法

###### (1) 学士課程

###### ①体系的な教育課程の編成状況

- ・すべての学部、学科・課程（コース）において、ディプロマ・ポリシーに掲げている育成する資質・能力と授業科目の関連を表すカリキュラムのカリキュラムマトリックスの点検を行った。
- ・すべての学部、学科・課程（コース）のディプロマ・ポリシーを検索できるシステムを開発した。

###### ②学生のニーズ及び社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

新入生を対象とする学習調査（学習カルテ：アンケート（初年次））、2年次生を対象とする学習調査（学習カルテ：アンケート（2年次））及び卒業・修了年次生を対象とする学習調査（学習カルテ：アンケート（最終年次））を実施し、学生のニーズをく

み上げている。結果はセンターホームページにおいて公開している。

- ③養成人材像に応じた教育方法や自主的学習を促す教育指導方法の工夫  
 本学の掲げる教育のスローガン「宮崎に学び、未来をきり拓く人材（グローバルデザイナー）」を育成するに、平成26年度からスタートした基礎教育「課題発見科目」の実施報告を行う研修会を開催し、教育指導方法について議論を行った。  
 平成27年度 基礎教育部 FD/SD 研修会(12月27日開催)  
 「基礎教育改革と地域志向教育プログラム  
 －アクティブ・ラーニングの実践例と地（知）の拠点整備事業（COC）－」

## (2) 大学院課程

教職大学院の必修科目・選択科目を担当し、教員養成プログラムに貢献した。

- ①体系的な教育課程の編成状況
- ・すべての研究科、専攻において、ディプロマ・ポリシーに掲げている育成する資質・能力と授業科目の関連を表すカリキュラムのカリキュラムマトリックスの点検を行った。
  - ・すべての研究科、専攻のディプロマ・ポリシーを検索できるシステムを開発した。

## 1-2. 教育成果の状況

### (1) 学士課程

- ①履修・修了状況から判断される学習成果の状況
- ・前期、後期毎にすべての学部、学科・課程において、履修状況（GPA、登録単位、取得単位）を調査し、大学教育委員会へ報告した。学部においては調査結果を検討し、履修指導等に活用している。
  - ・前期、後期毎にすべての学部、学科・課程において、GPCを調査し、大学教育委員会へ報告した。学部においては調査結果を検討し、厳格な成績評価に向けた改善へ役立てている。
  - ・ディプロマ・ポリシーに掲げる育成する資質・能力に関係する授業科目の履修状況、到達度を点検・評価する「学習カルテ：履修システム」を開発し、全学での運用を開始した。
  - ・上記「学習カルテ：履修システム」の機能強化し、入学時から卒業時までの履修状況点検するシステムを開発した。これにより、学部長、学科長等、教育の管理に就いている教員が学生の履修状況をより詳細に点検し、学習に問題を抱えている学生の早期発見と指導に活用できるようになった。
- ②資格取得、学外試験受験結果、学会発表・論文、受賞・表彰等から判断される学習成果の状況
- 該当なし。
- ③学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果
- 2年次生を対象とする学習調査（学習カルテ：アンケート（2年次））及び卒業年次生を対象とする学習調査（学習カルテ：アンケート（最終年次））を実施し、学業の成果の達成度や満足度に関するアンケートを実施している。その結果、ディプロマ・ポリシーの明確化と周知、厳密な成績評価の推進していくことの必要性が明らかになった。
- ④進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況
- 該当なし。

### (2) 大学院課程

- ①履修・修了状況から判断される学習成果の状況

- ・前期、後期毎にすべての研究科（医科学看護学研究科、医学獣医学総合研究科を除く）において、履修状況（GPA、登録単位、取得単位）を調査し、大学教育委員会へ報告した。学部においては調査結果を検討し、履修指導等に活用している。
- ・前期、後期毎にすべての研究科（医科学看護学研究科、医学獣医学総合研究科を除く）において、GPCを調査し、大学教育委員会へ報告した。学部においては調査結果を検討し、厳格な成績評価に向けた改善へ役立っている。

### 1-3. 学生支援の状況と効果

#### (1) 学士課程

##### ①履修・学習の支援の状況と成果

- ・授業科目の履修状況、得点分布、到達度を点検するウェブシステムを開発した。学生自身も点検できるようになっている。
- ・障がい学生支援室運営会議や学生支援カンファレンスを通じて、各部局間での情報共有や連携の推進を図った。
- ・学生ボランティア活動支援室の設置を行った。

##### ②学生生活の支援の状況と成果

- ・安全衛生保健センター、障がい学生支援室と連携し、学生支援フォーラムを開催（全学型2回、少人数・出前型4回）し、障がい学生等に対するより良い支援の在り方についての教職員の意識向上を図った。
- ・学生の学修・生活相談を行う学生なんでも相談室について、新入生及びその保護者向けのリーフレット（「学生相談のご案内」）の作成・配付を行い、周知を図った。
- ・安全衛生保健センターとの学生支援カンファレンス（月1回程度）を実施し、各学部からの参加も得て、情報共有を図った。

##### ③就職支援の状況と成果

- ・全1年次生を対象にした「進路意識調査」（平成24年度より）を実施し、その結果を学生委員会、キャリアサポート専門委員会で報告し、各学部へのフィードバックを行った。
- ・キャリア支援課と連携し、就職ガイダンスや就職相談体制を充実・強化した。
- ・学生委員会、キャリアサポート専門委員会と連携し、「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」の運営を支援した。採択企画の活動の中には、新聞・テレビなどのメディアに取り上げられたものもあった。
- ・就職内定率は、学部 93.8%・大学院 94.6%（3月末現在）であり、選考・採用日程の変化等の影響にも対応し、高い数値を達成できた。

#### (2) 大学院課程

##### ①履修・学習の支援の状況と成果

授業科目の履修状況、得点分布、到達度を点検するウェブシステムを開発した。要望のある研究科にサービスを行っている。

### 1-4. 改善のための取組

#### ①教育活動の質の保証の体制

大学教育委員会の下部組織のFD専門委員会にセンターが中心に関わり、全学のFD・SD研修会を次のとおり4回開催した。

- ・第1回宮崎大学FD/SD研修会（7月30日開催）  
 テーマ：アクティブ・ラーニングを評価する  
 講演：「何のためのアクティブ・ラーニング？ —能力の形成と評価をめぐって—」

てー」

講師：松下 佳代（教授：京都大学高等教育開発推進センター）

- ・第2回宮崎大学FD/SD研修会(11月26日開催、基礎教育部合同研修会)

テーマ：教育の質保証について考える

講演：「教育の内部質保証：その基盤づくりと実際」

「4学期制度：お茶の水女子大学の実践」

講師：半田智久（教授：お茶の水女子大学教育開発センター）

- ・第3回宮崎大学FD/SD研修会

テーマ：アクティブ・ラーニングに対する教員と学生の意見交換

教育活動における学生からの視点を重要視する観点から、学生との対話や交流の要素を取り入れた教育改善活動も、教員のFD活動の活性化には重要であると考え、学生との直接対話を取り入れた学生参加型のFD/SD研修会（学生と教員とのパネルディスカッション形式）を実施した。

- ・第4回宮崎大学FD/SD研修会

テーマ：成績評価から教育を改革する

講演：「アクティブ・ラーニングの成績評価に関する動向と問題点」

講師：山下仁司（エデュ・リンク代表・ベネッセ教育総合研修所特任研究員）

報告：「学生調査に基づく改善事項について」

報告者：藤埴智一（教育・学生支援センター）

## ②改善を要する点等の改善状況

- ・大学教育と学生支援という2つのミッションを効率的に企画・運営する方策を検討するという課題に対して、大学教育委員会及び学生委員会を通じて各部局と連携を密にして、FD活動、学生支援の事業を実施した。

## ③今後の課題

- ・教育の内部質保証システムの在り方を提言し、教育の質保証・向上を推進する。

## 2. 研究活動

### 2-1. 研究活動の状況

- ①論文・著書等の研究業績や学会での研究発表の状況

#### 【論文】

藤埴智一，2015，「工学部のプロジェクト型学習：多様化する学習課題への対応」『教育学研究紀要』中国四国教育学会，61（印刷中）。

#### 【学会発表】

藤埴智一，2015，「学生に学習させる大学：組織特性に着目した国立大学工学部の事例」日本教育社会学会第67回大会発表，駒澤大学，2015年9月10日（同発表要旨集録，384-385）。藤埴智一，

2015，「工学部のプロジェクト型学習：多様化する学習課題への対応」中国四国教育学会第67回大会発表，岡山大学，2015年11月15日。

- ②外部資金等による研究実施状況、外部資金等の受入状況

基盤研究(B) (一般)「アクティブ・ラーニングによる学士課程教育の刷新とそれを可能にする組織開発」，研究課題番号：15H03488，研究代表者：藤埴智一。

(概要)学士課程教育におけるアクティブ・ラーニングを指導方法、組織、マネジ

メントの観点から国際比較を行い、それぞれの文脈に応じた成功要因を考察。  
直接経費 2,050 千円

挑戦的萌芽研究「理工系学士課程における課題解決能力の育成」、研究課題番号：  
25590245, 研究代表者：藤埴智一。

(概要) 抽象的な課題解決能力の概念を教育の実践の観点から学際的に分析し、詳細を定義。

直接経費 800 千円

基盤研究(A)「キャリア・職業教育による高等教育の機能的分化と質保証枠組みに関する研究」、研究課題番号：25245077, 研究代表者：吉本圭一(九州大学), 研究分担者：藤埴智一。

(概要) 大学内部の機能の変化、多様性を外部の卒業生や関連企業というキャリアの観点から実証的に検証。

直接経費 200 千円

### 3. 社会連携・社会貢献活動

#### 3-1. 社会連携・社会貢献活動の状況

##### ①社会連携・社会貢献活動の計画と具体的方針

センター教員が高等教育コンソーシアム宮崎の運営委員会委員、企画会議委員、及び諸事業の実施委員会委員として、コーディネート科目事業、単位互換事業、インターンシップ事業、就職支援事業、FD 事業を企画し地域連携・地域貢献を推進した。

##### ②社会連携・社会貢献活動の公表の状況

- ・センターのホームページを通じて高等教育コンソーシアム事業を紹介している。
- ・高等教育コンソーシアム宮崎のホームページを通じて事業案内と実施報告を行っている。
- ・高等教育コンソーシアム宮崎のフェイスブックを通じて事業案内と実施報告を行っている。

##### ③社会連携・社会貢献活動計画に基づいた活動の内容・方法及び活動の実施体制

- ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として、インターンシップ参加学生を対象とする事前研修会(7月4日)を企画し、実施した。
- ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として公募による卒業研究事業を企画し、成果発表会(2月27日)を開催した。

##### ④教育サービス活動・学習機会の提供の状況

- ・生目台地区の寺子屋の運営への協力(講師となる教職大学院生の募集等)を行った。
- ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として「トークイベント：今後のローカルのあり方とは。そのとき宮崎は？」を開催(9月26日)した。
- ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として「フードフェスティバル」を開催(11月7日)した。
- ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として「トークイベント：仕事と遊びの垣根をなくして生きる」を開催(9月26日)した。

##### ⑤地域社会づくりへの参画の状況

該当なし

##### ⑥履修証明プログラムの実施体制、実施方法及び実施状況

該当なし

#### 3-2. 社会連携・社会貢献活動の成果

①活動の成果

高等教育コンソーシアム宮崎の事業に中心的に関わり、コーディネート科目事業、単位互換事業、インターンシップ事業、就職支援事業、FD事業、フードフェスティバル事業を企画し地域連携・地域貢献を推進した。

3-3. 改善のための取組

①社会連携・社会貢献活動の質の保証の体制

高等教育コンソーシアム宮崎の委員会構成及び事業の点検・見直しを行い、コンソーシアム事業の活性化を図った。

②改善を要する点等の改善状況

高等教育コンソーシアム宮崎の委員会構成及び事業の点検・見直しを行い、実施委員会を構成した。

③今後の課題

見直した実施委員会構成により、高等教育コンソーシアム宮崎の事業の活性化を図る。

4. 管理運営体制及びその他

4-1. 管理運営体制及びその他の状況

①教育研究等を活発に行える管理運営体制・事務組織が構築され、適切に運用されているか。

センター内の組織に、教育企画部門と学生支援部門を設置し、大学教育に関わる企画事業と学生支援事業を行っている。当センターの事務所掌は学生支援部が行っており、部門毎に、担当課が連携して活動を支援している。

②教員の採用・昇格の基準や業績評価方法を適切に定められ、運用されているか。

当センターにおける任期付き教員の再任審査に関する申し合わせを制定、また、本学の教員個人評価の基本方針および教員評価実施細目に基づき、センター教員の個人評価実施要項を制定し、運用している。

③教育研究を行うための施設・設備が適切に整備されているか。

平成22年10月の改組に伴い、大学会館3階に当センターを設置。専任教員3名の研究室を確保している。

④教育研究等の情報の適切な公表と積極的な発信が行われ、かつ個人情報の保護等に十分な配慮がなされているか。

- ・ホームページを作成し、当センターの活動状況等の情報を発信している。
- ・個人情報の保護については、本学の個人情報保護規則を遵守し、適切に管理している。

V. 今年度の活動総合評価

1. 活動状況の自己総合評価

- 良好である
- おおむね良好である。
- 不十分である。

2. 判断理由

・ディプロマ・ポリシーに掲げる育成する資質・能力に係る授業科目の履修状況、到達度を点検・評価する「学習カルテ：履修システム」の機能強化し、入学時から卒業時までの履修状況点検するシステムを開発した。これにより、学部長、学科長等、教育の

管理に就いている教員が学生の履修状況をより詳細に点検し、学習に問題を抱えている学生の早期発見と指導に活用できるようになった。

- 平成 26 年度からスタートした学士課程教育プログラムにおける教育方法の特色であるアクティブ・ラーニングを推進するために、昨年度整備を行った教育文化学部研究棟の CALL 教室 A、B の 2 教室の整備を充実し、さらに、教育文化学部講義棟 L105 教室を新しくアクティブ・ラーニング教室として利用出来るように教育環境の整備を行った。
- 第二期中期目標・中期計画の最終年度にあたり、教育に関わる事業について、達成状況報告書を作成し、結果、教育の質保証・向上に貢献した。
- 障がいのある学生への支援等において、部局間の情報共有と連携を図ることができた。
- 就職内定率を、高い水準で維持できている。